不定期刊　五行歌・ことばなど

箋

sen

編集・五行歌と文　　金沢詩乃

まえがき

普段は歌誌に掲載する分しか作品を作らないのだけど、それでも出来不出来は別として
一つ二つは余分に出来たり、歌会のみの提出歌であったり、そういうのがあったりする。

限りなく（わたしの感覚では）素描に近いこの歌をこういう形で発表する意味とはなんだろうと考えてみる。

一つには推敲や手直し、いわばサンドペーパーで均す以前のざらついた呼吸の感触に、
きっと自分自身がうっかり見落としているものがあるのかもしれないし、
それを見出せるだろうかという実験的な意味合い。

二つ目には、身内ではない人々の目にさらすことで自分の中の「冷めた」透徹した目線を鍛えたいという事。
長らく歌を作っていると推敲そのものにも自分なりの方法論ややり方が定着していて
「何だかいつも同じ感じの歌」と「変わらなさが自分の芯」というのは全く違うにも拘らず
気づいていない、気づけなくなってしまうのがある。

前回、今までの歌をまとめるために電子書籍という自由なツールでもって、
こういう詩形をまったく知らない方々の目に触れさせるという経験は貴重だった。
不定期ではあるけれど、素描をさらしそこから得るものは何かを受け止めつつ、
自分の歌と向き合った記録であり探究メモを、その都度貼り付けていこうかと思う。

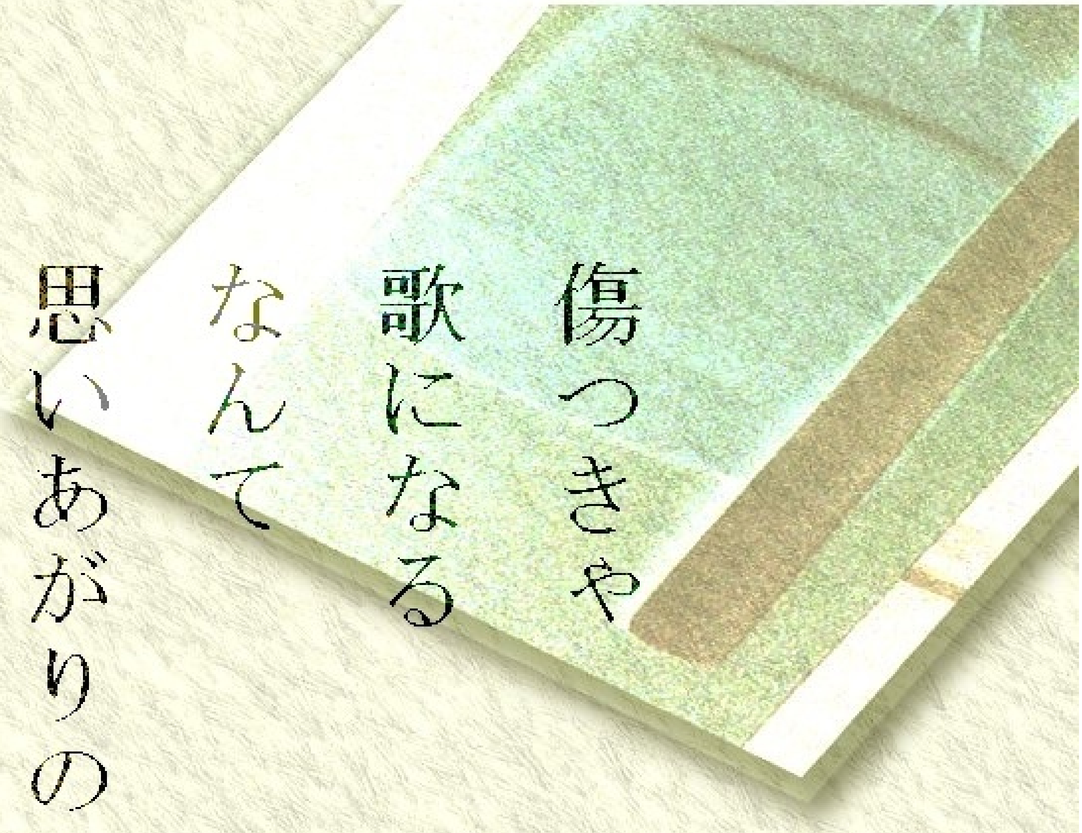
個人冊子名の「箋」とは付箋の事で、それくらいの気軽さと貼っても剥がせる自由さ。
つくるわたしも目にしてくださった方に対してもそうであればと思う。
そして、意外に大事なキーワードも実は書かれているということも
どうか見逃さずに。

粗書 Aragaki

探し出してみせる
わたしの
光と
闇を
つなぐ手を

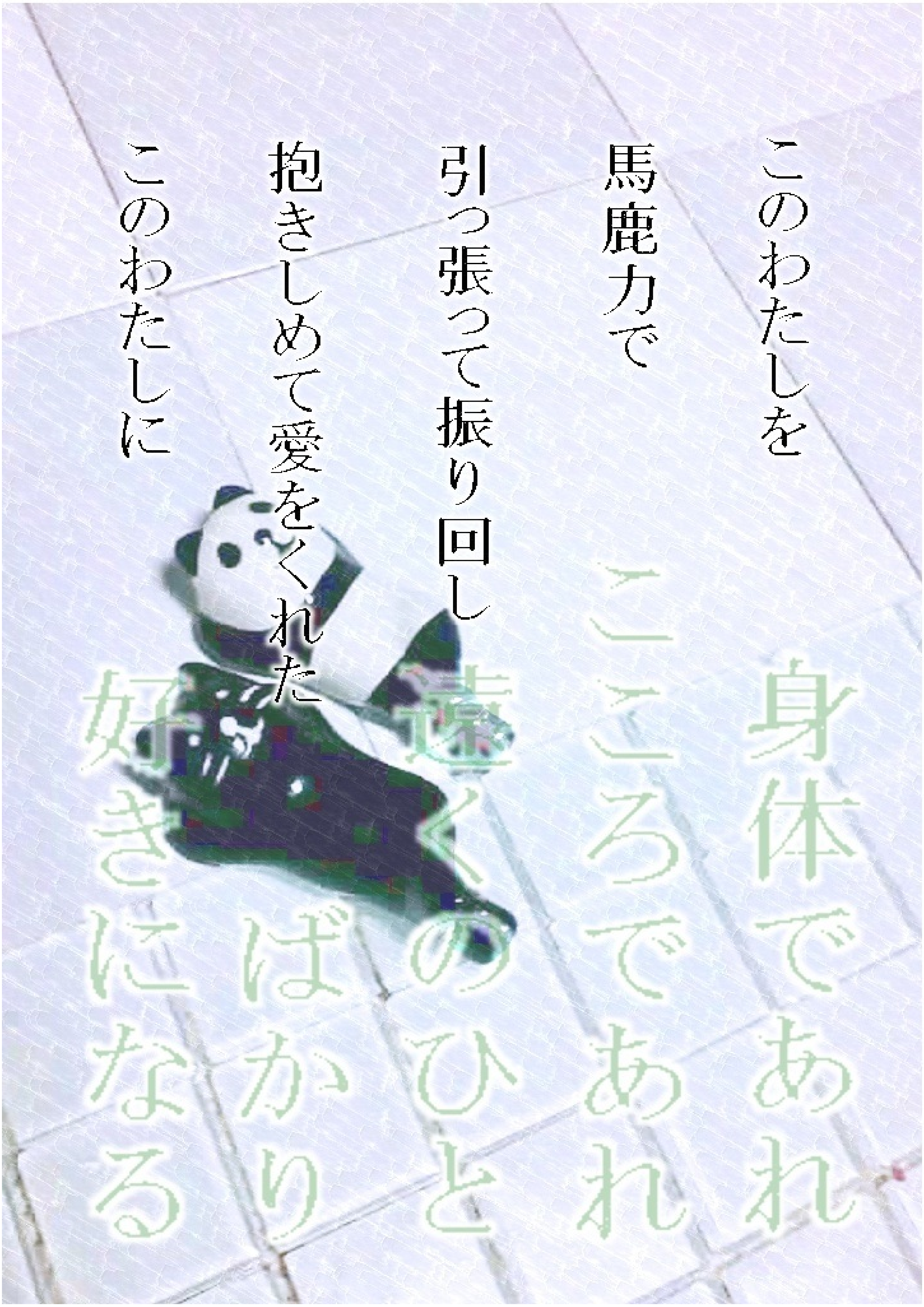
夏時雨の
まぎれて
亡きひとの声
こんなにも
染みいる

あなたの
面影だけが
眼裏を
淡く照らす
夜が待ち遠しい



傷つきゃ
歌になる
なんて
思いあがりの
過去を紐解く

吐き出すのも
いい加減
うんざり
でも吐き尽くさねば
拓けない道だった


このわたしを
馬鹿力で
引っ張って振り回し
抱きしめて愛をくれた
このわたしに
身体であれ
こころであれ
遠くのひと
ばかり
好きになる

大作曲家の褌を借りて

指揮棒の合図で
木々も
そよぎを止め
マーラーの「巨人」が
眠りから覚める

この歌は購読している歌誌に特集として９月号に組まれているものの中の一首である。
ちなみにクラシックの野外コンサートに行った時の事。
行った数日後にいいタイミングで依頼が来て「書けという天のお告げ（こじつけとも言う）か」と思い
~~〆切まで時間もなかったので~~近来稀に見る集中力で仕上げた。内容はともあれそこだけは自画自賛。

自分が歌を作る際に固有名詞を出す時、大体下の２パターンのミックスになる。

①その文字から醸し出されるイメージ効果を狙う
②記録的な意味合い

①の効果としてはマーラーの「巨人」は立派にそれを果たしていて
クラシックをあまり聴かない人でもマーラーの「巨人」、と目にしただけでも
「なんかわからんがスケールでかそうーしかも巨人だし！」
という印象は受けると思われる。

②のような動機づけとしては今回のコンサートの目玉的な演目ではあるし
実際深いメッセージを受け取った感があるので記録や記憶としては外せない。

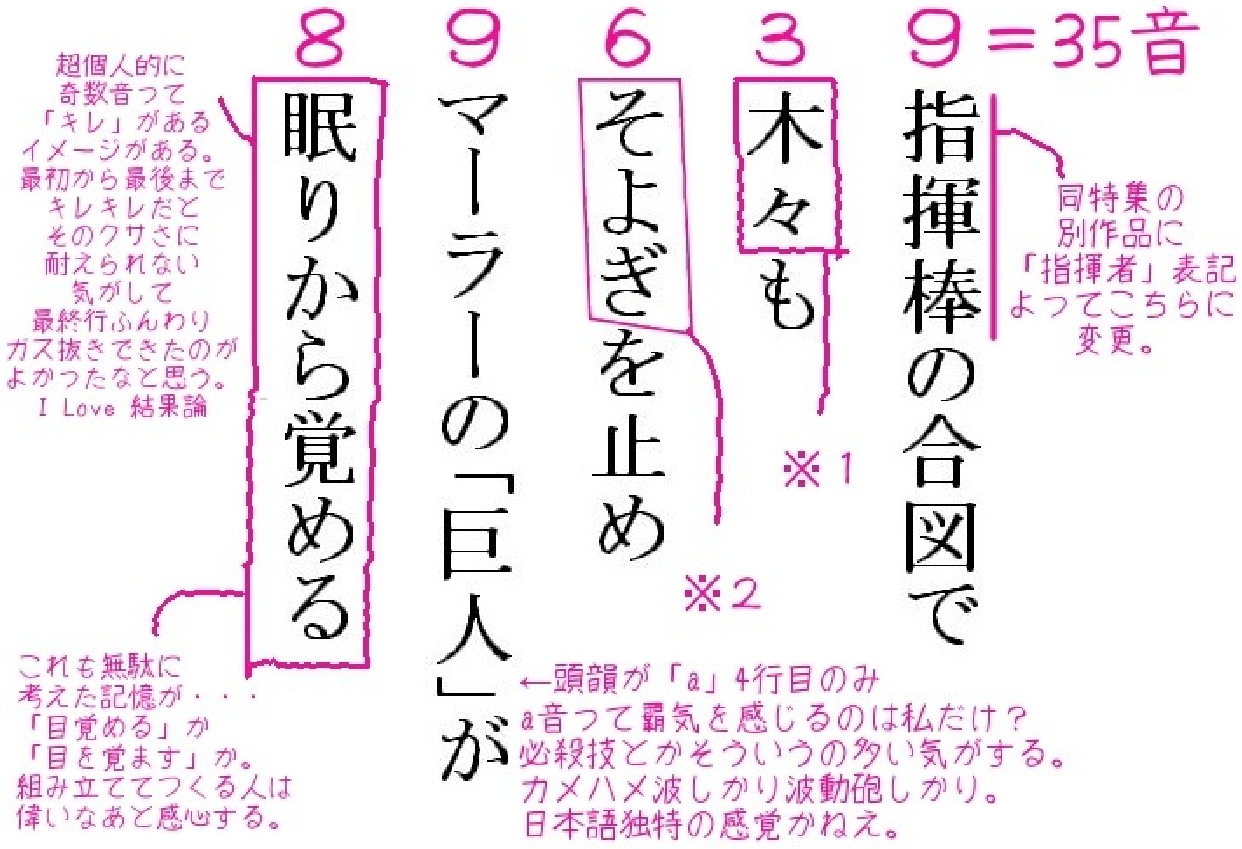
でもしかし、でもしかし。

自分で作ったにもかかわらず、なんだか臭うこの姑息臭。

実際ちゃんと聴いてリアルタイムな感動を歌にしたにもかかわらず、
「いや、でも、それある意味私じゃなくてマーラーさんのおかげですし！！
言わば彼の褌を借りただけのようなものですし！！」
という居心地のむず痒さを感じてもいたりする。
普段赤裸々なストレートな歌をつくるくせに、「お約束的表現」でまっすぐ推すことに
妙な気恥しさを感じる性質もあるのかもしれないけれど。

そこで、痒みの原因究明と見直しも兼ねて、制作時まで遡り赤字でツッコミを入れてみた。

自分的にはこういう歌は固有名詞であるが故に五行の中で「浮かないように」
他の行や言葉の兼ね合いとバランスに（計算通りに行くかは別として）滅法気を使う部分がある
。
気を使うという事はそれだけ頭で組み立てて作っているということであり、今回こういう形で
思考の跡を辿るという事も容易にでき、こうして説明も出来る。
ただ、それだけでその作品の良いかどうかが決められるわけでもなく、
「なぜこの歌が生まれたかよくわからないけれど心の中からぱーんと表れて」形になった
素晴らしい作品も見受けられたりもする。方法論はそれぞれ。
今回は特集作品をつくる過程で私的に気づいたり発見したり（主にダメダメな部分・・・）した
ことを
ここに書き連ねてみる、という事なんである。



【プチ発見】よく校正やお習字の直しとか赤鉛筆や朱墨を使うが、
マゼンタにすると訂正の「負」なイメージがぐっと半減していい感じ。うん、まあそれだけ（笑
）

一応書いておくと、実際いちいちこんな小難しい事を考えて歌を作ったりはしない。
ただ、後付けにしろこじつけにしろ自作に対して論理的に振り返られる目線というのは
すごく重要なんじゃないかと個人的に思っている。
そうでなくては（作品評などでも）他者の作品をきちんと見る事も適わないような気がする。
五行、という構造の特性上至極クールに推敲しやすい分、理系的な発想の人でも
割合取っ掛かりやすいと思うし、そこも始める間口が広い理由のひとつでもあるのではないか。

※１
木々と樹々。個人的には後者が好み。
でもあくまで4行目に重きを成したいので背景的に「木々」にする。

※2
しかし背景と言えどギャラリーでもあるから巨人の存在感が引き立つ程度に
擬人化した方がその当時の実感がこもる。
クラシックコンサートで、曲が始まる瞬間のしんと静まり返るあの空気をどう表せるか。
(3行目にかなり試行錯誤したので説明長いですすいません)
ざわめき(うるさいかも)→さざめき(ちょっと自然味薄れる)→そよぎ(まんま木だろソレ)→ざわめきに戻る
…こんなループに嵌まっておりました。
最終的には「もうそよぎにしとこう**(疲)**」で~~妥協~~解決しましたが。

←マーラーご本人。男前です。

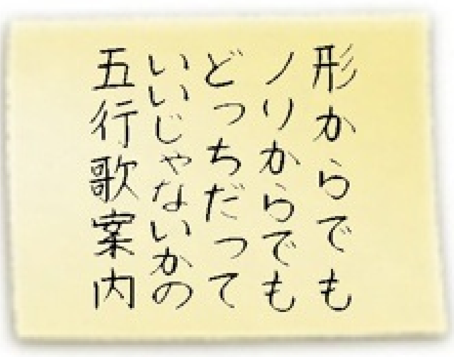
ちなみに「巨人」はマーラーの最初に書いた交響曲の名前ですが、
曲自体の表題は巨人が出てくる訳ではございません。
彼が作曲当時愛読していたジャン・パウルの小説「Titan(巨人)」に由来しています。いわゆる青年の成長物語な内容で、このあたりはマーラーの交響曲「巨人」wikiページの「巨人の表題について」の項に詳しく記載されています。
表題から受ける印象と実際の曲の内容とのミスマッチもあるとはいえ、このネーミング自体が彼自身のスケール感のある曲風との相乗効果を生み、存在感を与えた点は否定できないでしょう。

改めて自作を振り返ってむず痒さの大元を考えてみると、多分自分自身こういう
「設計図がわかりやすい歌」を書くことに対する照れといささかの戸惑いがあるからではないかと思う。
基本ノックダウンとまではいかずともパンチを「打つ」という事に意味があり（何故ボクシング？）
その一打を打つことの裏側に「どれだけの訓練に耐え抜いてきたか」は
別に理解されなくとも重要ではないし自分にとっての五行歌はそういうものだなと思っている。
リング外の解説者席じゃなく、あくまでリングが自分の場所なのだと。

それが何でかゲストとして呼ばれ座れ慣れない席に座るような居心地の悪さ。
でもこういう気づきは座ってみなければわからないものなんだなとも思った。
そして発見もあった。外で見る目線。お客さん目線。

記憶の記録に徹する、という事にも意味があるのだなということ。

今回行ったコンサートも昼から夜までの野外の長丁場でそれもかなり楽しかったし
リアルタイムの感動は今もまだ続いている。
感動だけではなく何かをつくる、つくり続けたい者として感化されてきた事を
この歌を目にする度思い起こせる、という意味では意義があったのではないかなと。
絵でも音楽でも演劇でも、そういう出会いはそうそうない。
きっとマーラーにとってのジャン・パウルの著作との出会いのように。
と、結論を出してみる。
自分がそれ以上のものを生み出せるかどうかは放り投げておいて（笑）



①ひっそりと興味をもってみる編

「五行の分かち書きで一行が一息で読めるリズムと音で季語とか枕詞とか関係なく
日常の話し言葉で自由に書ける詩形」と書くと
「そんなんでいいんだ、それは気楽でいいや」
もしくは
「漠然としてるなあ、とっかかりがあるようでないような・・・
（そもそもそんな文芸初めて聞いた。実在するの？）」の
二通りに大まかに反応が分かれます。

勢いでガンガン門戸を叩いてみたい派も仕組みやその文芸自体をまずは知りたいソロソロ派も
まだ歴史も浅いけど実在するんだよという確認の意味で、公式サイトを覗いてみるのがいいかも
しれません。

五行歌公式サイト　http://5gyohka.com/

五行歌創設までの歴史や、主宰者、団体としての歩みなど説明されています。
各地方で行われている歌会の紹介も載っているので、ご近所にもしあれば
見学してみるのもいいと思います。きっとどこも大歓迎してくださいます。
「それでもいきなりお邪魔するのも緊張する〜ヒトミシリですし」という方も
それはそれでまずはひっそり楽しんでみるのも良いです。
パブーやブクログ愛好家の方々はきっとそういう方が大多数だと仮定して
ゆるい手引きのようなものを書いていこうかと思います。

◆日記代わりにメモしてみる。

mixiやブログを持っていれば、そこに載せてみるのもいいのではないでしょうか。

一見五行書きの日記にしか見えませんから

詩歌とか自分から言わなければわかりません（笑）

人目に触れるのにちょっと戸惑いがあるなら、自分の携帯のメモ機能にこっそり貯めておくのも手です。

その日あった事なんでも書いてみてください。

買い物しておつりがぞろ目だったり、

飲み会が楽しかったり、キモイ上司が更にキモイ出来事等々。

文字にしてみるといろいろな発見もあります。

◆五行歌を載せているブログなどを見てみる。

個人サイトは結構存在しますが、ここでは３つほどご紹介します。

エッセイの小部屋　http://homepage3.nifty.com/shiduku/

ココロノイロ　http://youquico.ninja-web.net/

虚ろ舟　http://www.utsurobune.com/

それぞれライフスタイルも歌の雰囲気も違う方々です。

あわせてブログもあるのでそちらも見てみるといいと思います。

五行歌についてのコメントをしてみても良いかと。きっと大喜びで返事が来ると思います（笑）

次回はそろそろっと交流編へ続きます。

奥付

不定期刊　～箋～

http://p.booklog.jp/book/33148

著者：金沢詩乃
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/shinop/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/33148

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/33148

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.